⑳東日本大震災で被災した松川浦漁港の復旧

受賞機関　福島県 相馬港湾建設事務所

キーワード　早期操業再開、施工方法変更、工期短縮、コスト縮減

全建賞審査委員会の評価ポイント

甚大な被害を受けた松川浦漁港の復旧事業。操業再開に向けて復旧の優先順位を決め、応急工事による岸壁の復旧や瓦礫撤去を速やかに実施し、震災後１年３ヶ月で操業を再開した点や、海上工事ではなく仮設道路による陸上工事で実施したことで、広いヤードを確保し、工期短縮とコスト縮減を実現した点が評価された。

1. はじめに

福島県浜通り北部の相馬市にある松川浦漁港は、漁獲量・漁獲高とも県内一を誇る漁港であり、東日本大震災前は年間約14,000トンを超える陸揚量を有していた。

しかし、平成23年３月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による大津波の襲来により、漁港施設全てが被災し、甚大な被害を受けたことで漁業活動が出来ない状態に陥った。

2. 事業の概要

地震や大津波により74施設すべて（原釜地区、鵜ノ尾岬地区、松川浦地区、磯部地区、岩ノ子地区）が被災し、倒壊又は流出した防波堤、護岸及び岸壁等の復旧並びに、航路・泊地内に堆積した土砂の浚渫など各種漁港施設の復旧を実施し、平成30年７月にすべての災害復旧事業を完了した。

復旧後の松川浦漁港全景

3. 事業の成果

本漁港の復旧にあたっては、早期操業再開のため、漁業者と復旧する施設の優先順位について調整を行い、荷捌き所がある原釜地区の岸壁を最優先に利用可能な状態に復旧しつつ周辺の瓦礫撤去を応急工事で行うことにより、平成24年６月には試験操業を開始することができた。

これにより、県内最大の漁港である松川浦漁港が、いち早い操業を再開出来たことで、県内の水産業における復興の第一歩を踏み出せた。

鵜ノ尾岬地区の復旧については、当初海上施工により泊地の浚渫と防波堤の復旧を同時期に行い、完了後に岸壁と背後地の復旧を行う予定としていたが、破堤部からの波の流入が激しく、作業船による施工は困難であった。そのため、漁業者及び水産庁と調整をした上で、航路・泊地に捨石を投入し、仮設道路を設置したことから海象条件に左右されることなく陸上施工が可能となった。

鵜ノ尾岬地区復旧中の状況

これにより、当初予定していた工期よりも約１年半も早く完了したことや、陸上施工に伴い、約１億円以上のコストを縮減した。

4. おわりに

本漁港は、平成30年７月に復旧が完了した後、令和２年７月には原釜地区に隣接する原釜小浜海水浴場で、「相馬尾浜ビーチバレーボール場」が開設したことや、令和２年10月には原釜地区で「浜の駅 松川浦（相馬復興市民市場）」がオープンするなど、今後も多くの観光客が足を運ぶ賑わいのある漁港として発展していくことが期待される。

最後に、水産庁をはじめとする関係機関の皆様、並びに全国より本県の復旧・復興業務のために応援に駆けつけて頂きました皆様へ、心より感謝申し上げます。

賛助会員　㈱東コンサルタント、㈱小野中村、㈱オリエンタルコンサルタンツ、川田建設㈱、関場建設㈱、㈱東京建設コンサルタント、東北建設㈱、㈱ニュージェック、三井共同建設コンサルタント㈱、横山建設㈱